

# きぼう

令和8年6月30日(火)  
静岡大学教育学部  
附属静岡小学校  
6年 学年便り 7月号

## “小学校生活最後”のグル活・本キャンプへの思い

6年生の学校生活も3か月が過ぎました。附属小の最上級生として個人でやるべきことに取り組むのはもちろんのこと、視野を学級、学年、学校全体に広げ、「自分のため」「誰かのため」に日々一生懸命学校生活を送っている姿があります。そして今、きぼうの子どもが力強く向かっているものは、小学校生活最後のグループ活動・朝霧本キャンプです。

遡ること5年時の年度末、グル長、副グル長を決める選挙を学年全員で行いました。立候補したあなたが全力で自分の思いを仲間に語り掛ける姿、スピーチを聞くあなたが真剣な眼差しで仲間の思いを全力で受け止めていた姿が印象的でした。選挙の末に決まったグル長と副グル。それぞれで立場は違えど、きぼう全員で「小学校最後のグル活・本キャンプを最高のものにする」という決意を固めた学年での時間は、確実に今年度のグル活・本キャンプに臨む上での土台となっているはずです。

そしていよいよ始まった6年生としてのグル活・本キャンプです。

今年のグル活・本キャンプは「きぼう」「はばたき」「ひびき」と共につくり上げていきたい。私はグル長としてみんなを引っ張っていきたい。

この文章は、第1回目のグル活の後に、あるグル長が記した振り返りです。このグル長は4～6年生の全員が参加した結団式での決意表明で「みなさんは、キャンプが好きですか。私の正直な気持ちはあまり好きではありません。厳しい環境でのキャンプがつらくて、泣いたこともありました。」の言葉からスピーチを始めました。過去のグル活や本キャンプに対してネガティブな思いをもっていたのになぜグル長に立候補したのか。その答えとしてグル長が2つ挙げたものがあります。1つ目は「過去に出会ったグル長の存在」です。当時のグル長の「大丈夫だよ」「一緒に頑張ろうよ」の言葉のおかげで、苦しいことも乗り越えることができたそうです。2つ目は「自分自身にとっての成長に繋がる経験」です。過去2回の経験が確実に自分の成長に繋がることを実感したので、より自分を成長させるために立候補したことを力強く語ってくれました。実際に動き出した本年度のグル活では、下級生に「分かる?」「大丈夫?」と常に語り掛けながら活動を丁寧に進めていくグル長の姿があります。活動後には必ず指導教員のところに来て「先生が(全員の)振り返りを見たら私にも見せてください」と言いに来る姿があります。グル長は自分は振り返りカードに目を通す意味を「みんながグル活に対してどんなことを考えているか分かりたい」「その人がどういう人かを知りたい」と語ってくれました。グル長を奮い立たせるものが今までの経験、そして先輩から受けついできた思い、そして附属小最上級生として誇りであることがグル長の姿からひしひしと伝わってきて、指導教員としては胸が熱くなる思いです。

今のあなたのグル活への向かい方はどうでしょうか。グル活の時間以外にも休み時間に指導教員に話をしに行ったり、各系の会議に出席したりとキャンプ帽を被りながらせわしく校舎内を歩き回る皆さんをよく見かけます。中には手作りのプリントを準備し、4・5年生の学級に渡しにしている姿もあります。「今自分に何ができるか」を考えて行動する姿がとても光り輝いています。本キャンプに向けたグル活も残りあと2回です。重点目標の「自分よし あなたよし みんなよし」に向かって、各グループが掲げるグループ目標の達成に向かって、あなたらしく突き進んでいってほしいと願っています。